

令和6年度 第1回安曇野市自転車活用推進協議会 会議概要

1	会議名	安曇野市自転車活用推進協議会
2	日時	令和6年8月22日(木) 午前10時から午前11時50分まで
3	会場	安曇野市役所 会議室307
4	出席者	益山会長、太田副会長、平林委員、佐藤亜紀子委員、小林可奈子委員、松島委員、半崎委員、小林毅委員、伴野委員、磯野委員、佐藤恵介委員、二木委員、花岡委員、白井委員
5	欠席者	村越委員
6	市出席者(事務局)	黒岩部長、丸山課長、百瀬係長、小平係長、佐々木主任 下里課長(観光課)、小穴係長(建設整備課)、小畑係長(建設整備課)
7	公開・非公開の別	公開
8	傍聴人	なし

協 議 事 項 等

【次第】

- 1 開会
- 2 委嘱書の交付
- 3 商工観光スポーツ部長あいさつ
- 4 会長あいさつ
- 5 自己紹介
- 6 会議事項
 - (ア) 安曇野市自転車活用推進計画に係る令和5年度下半期の進捗状況について・・・【資料1】
 - (イ) その他
- 7 閉会

【会議事項】

(ア) 安曇野市自転車活用推進計画に係る令和5年度下半期の進捗状況について

＜事務局から説明＞
【資料1】A3版5ページ

- 委員1 ＜質問・意見＞
 昨年開催したサイクルスポーツイベントの開催の項目として、アルプス安曇野センチュリーライドを追加していただきたい。上半期ではあるが、4月、5月に開催を行い、4月は1,100人、5月に1,600人が参加をした。昨年参加者アンケートを行ったところ、合計2700人のうち90%が長野県外からの参加であり、連泊が多く最長で4泊、平均で1.4泊となり、2,700×0.9×1.4泊で延べ約3,400泊という数値であった。松本市梓水苑出発(160キロ)が以前は人気が高かったが、現在は国営アルプス安曇野公園出発(120キロ)の方が人気が高い。また、当イベントではJR長野支社と協議をして臨時列車として6両編成のサイクルトレインを導入し55人が利用した。参加者は国営アルプス安曇野公園をスタートして白馬まで走行し、白馬駅から安曇追分駅までサイクルトレインを利用して、スタート地点まで帰ってくるというルートが利用でき、非常に好評であった。
- 副会長 普段交通安全協会の指導員として活動をしているが、穂高駅のレンタル自転車をレンタルする際ヘルメットの貸し出しを行っていない。そのあたりが心配である。ヘルメットを着用してもらえる啓発方法等があれば教えていただきたい。
- 事務局 ヘルメットの着用については現状努力義務であり、いかに着用してもらおうかというところで啓発活動を行っている。小中学生の着用率は高いが、大人のヘルメット着用率は低いので、実際の事故の現場を見せるスケアードストレイトなど、広く大人に対しても周知を行っていききたい。
- 会長 レンタサイクル店への働きかけなども必要になってくると思われるがその点についてはいかがか。
- 事務局 穂高駅前のレンタサイクル店については、ヘルメット貸し出し希望者には貸し出しを行っている。実際に希望してもらえるかという部分が重要であるため、観光協会と協力して啓発を行っている。観光協会でもシェアサイクル利用者にヘルメット貸し出しサービスを行っており、観光客に対してもヘルメット着用の呼びかけを行っている。

副会長	レンタサイクル店の貸し出し自転車は、県条例で定めた自転車保険には加入しているか。
委員 2	おそらく加入しており、保険料も含めた利用料になっていたと思う。
委員 3	サイクルイベントで県外の利用者が多く参加していることを先ほどご報告いただいたが、県外の自転車利用者が車で自転車を運搬し安曇野を拠点に白馬方面まで自転車で走行をする際、車の駐車場所をどうするかということの問題視している。現在は暗黙の了解で大きい駐車場のあるスーパーなどに駐車をしている人がいるかと思われる。安曇野市が自転車を利用した観光を推進していくのであれば、公共施設の駐車場の一部を県外から来県した自転車利用者に開放するのも一つの案として検討をしたほうが良いのではないかと。無法地帯とならないよう一定のルールを設けた上、各地域の支所、保育園等利用しても問題がないような場所があれば駐車場として開放するといったような考え方について、市はどう思っているか。
事務局	市として県外の方に向けて開放しているスペースは無く、来県者はどこかに自由に駐車しているのが現状であると感じるので、支所等と協議をし、本庁舎も含めて空いているスペースを開放し紹介することについて検討をしていきたい。
委員 3	安曇野で自転車を利用する関西の人を知っているが、関西の人はFDAで松本空港までやってくる。FDAでは自転車を積載するハードケースの無料貸し出しを行っているため、関西方面からはFDAを利用して安曇野市に入ってくる人が多いという認識である。安曇野市では豊富なフィールドがあるというPRに併せて、駐車場があるということもPRできるとさらに多くの人々が安曇野を訪れるのではないかと。車を駐車した場所でのトラブルも考えられるので、市が胸を張って駐車可能な場所を提供するということが重要であると感じる。競技大会開催の際に必ず駐車場の場所の確保は問題となり課題であると感じているので、駐車所の件についてはしっかりと考えていただきたい。
事務局	安曇野市の観光の面ではパークアンドライドという考え方が非常に重要になってくるものであり、SDGsの観点からも必要である。車の駐車場所について、市で一定の場所に誘導を行い観光の一つのツールとして自転車で安曇野市内を巡ってもらうような方策は必要であると感じる。市の施策の中で他の課とも連携しながら考えていきたい。
会長	具体的な事例として観光客やMTB利用者などをどこに誘導しているかについて教えていただきたい。
委員 4	MTBコースはほりで一ゆ〜からさらに上ったところにあるので、同所に車を止めて自転車で出かけていくというケースは無いと思われるが、過去に前泊してMTBコースに来訪した人などは、堀金の道の駅やスイス村に車を駐車していたということを知ったことがある。一方で駐車場所にて車をパンクさせられた、自転車をパンクさせられたということを知ったことが2、3件あったため、市が公的な駐車場所を設けることについては私からもお願いしたい。また、県外の人に対する観光の推進という観点からも、駐車場所については急務の課題であると感じた。
委員 2	観光協会では安曇野サイクルロゲイニングを行っているが、こちらは個人でやるものであり、地元の人々が参加する場合、自宅から参加されるため駐車場所は必要ない。また、県外からの人は電車もしくは車で観光協会まで来ていただいてから参加となる。車で来訪された方は穂高駅付近の大型駐車場所を利用していただいている。私は、前職で山麓線沿いの観光施設で勤務をしていたが、同施設に車を駐車し、同所から自転車で観光をするという人が一定数いらっしゃった。先ほどの意見のとおり、安心して駐車できる場所が拡大していくことが望ましいと感じる。
会長	駐車場所は今後とも検討していく必要があり、調査も併せて行う必要があると感じる。
委員 4	<p>補足説明を行いたい。通番2のMTBコースの知名度拡大について、昨年度8月20日現在では延べ施設利用者は1000人であったが、今年度現時点では1400人を超えている。チラシ配り等の活動が実を結んできているように感じる。</p> <p>通番7、e-bikeのリースについて、ヤマハのe-bikeのリースを行っている。私がヤマハのe-bike eプロモーションビデオの作成に携わらせていただき、同ビデオについてユーチューブの再生回数が20万回を超えている。そういったご縁もあり、民間会社とのコラボ、コースの利用率の拡大という観点から、e-bikeのリースに踏み切った。1台50万円ほどするので、スクール参加者のみに</p>

貸し出しを行っていたが、スクールは料金が高額であり利用者が少なかったため見直しを行い、現在は希望者に1時間2,000円で貸し出しを行っている。

アソビューという予約サイトも導入し、現在はコース外のツアーを企画し参加者を募っている。

通番11、あづみのMTBクラブについてだが、JOCが進めている「女性コーチの増加」、「女性にスポーツを」という観点から企画を作った。チラシを全ての小学校に配布をしたが初めに集まったのは松川村の子ども達のみで安曇野市の参加は皆無であった。そこから松川村の人伝いに安曇野市の子とも達へと伝わっていき、現在は安曇野市内の子ども達も参加をしている。一方で24インチのレンタルバイクが少なく、現在は新たな加入者を受け入れることができない状態となっている。中学生にも開放してほしいという声が上がっているため、今後検討していき、レンタルバイクの増加についても検討を行っていきたい。

通番14、MTBコースの新設について、当施設では地形を活かしたコースを作成しているが、初めて来られた方には難しいコースであり、「安曇野市のMTBコースはとてもしゃないけど走れない」という噂が広がってしまった。このような声を受け、冬の閉鎖期間中に職員が3つのパークを作成し、ストライダーでも楽しめるような初心者向けのコースを作成した。当施設は安曇野市以外の行政の方にも関心を持っていただいております、今月末にも1団体が視察に訪れる予定となっている。

通番15、インスタグラムによる広報について、当社においても毎日のようにコースの状況等をインスタグラムにて発信をしており、2000件くらいは視聴されている。

通番21、公共交通との連携について、JRからもMTBコースの紹介を行っていただいております、その紹介を見たと言ってコースにやってくる方も過去にいらっしゃった。

会長 MTBコースは県外からの利用者が増えてきているように思えるが、市民の利用をどう増やしていくのが課題となっているように感じる。市民への利用を促すような活動を強化していく必要があるのではないかと思います。

委員5 環境フェアにおけるe-bike体験会について昨年開催をされているが、体験会の場所が分かりにくく、利用客が少ないように感じた。もう少し目立つよう呼び込み等を行った方が良いのではないかと感じたので次回の参考としてもらいたい。

また、自転車の環境負荷の低減について、安曇野市ではゼロカーボン計画を進めていると思うが、一般市民が自転車を利用するにあたって、安曇野市は自転車分担率が19市の中で13位であることが自転車推進計画に示されている。このことから今後気軽に市民が自転車に乗ってもらえるような方向性を示した方が良いと感じる。10分間だけでも車に乗らないことで年間588キロのCO2が削減されるというデータもあるので、少しだけ移動する際は自転車を使うという1人1人の意識が市民に根付いてほしいと感じる。

長野県市町村で自転車分担率13番目という順位について、市ではどのように考えているか。

事務局 計画策定当初から分担率が低いということがデータで示されており、これまで興味を持ってもらうような様々な普及活動を行っているが、まだまだ普及不足だと感じている。大きな課題ととらえたいので今後も普及活動を行っていききたいと思う。

副会長 高齢者には免許を返納して自転車に乗るよう交通安全教育を行っており、自らも自転車を利用しているが、道路事情が悪い。高齢者は歩道を走行しても良いことになっているが歩道の凹凸が激しく、車通りが多い車道は怖い。高齢者が自転車を日常的に乗るのは不可能に近いのではないかと。

委員5 自転車分担率が高い長野市、松本市について調べてみると何かわかることがあるのではないかと。

事務局 データの元を確認している訳ではないので確定的なことではないが、長野市、松本市は市街地であり、日常生活で車を使用するより自転車を使用した方が利便性が良いため、分担率が高いのではないかと推察する。

安曇野市は郊外に大型店舗があるため、車で移動した方が便利であるため、分担率が低いのではないかと。

会長 長野市、松本市は学校の数が多く、自転車を利用する中高生が多いため、こういった面もデータに影響をしてくれているのではないかと。

その他

- 委員 6 ①<ジャパンアルプスサイクリングロードに係る情報提供について>
ジャパンアルプスサイクリングロードに定めた山麓線に、今年度11.7キロの範囲で矢羽根、路面標示、案内看板を安曇野市関係各課と調整して設置を行う予定である。
- 委員 7 ジャパンアルプスサイクリングロードについてどこまでが安曇野市の管轄なのかが分からない。個人的に自転車で走行する際、道路状況が良くない場所について平素のメンテナンス等はそのような管轄でどのような人が行っているのか気になった。
また、公式ラインによる道路損壊情報の通報システムについて存じ上げなかったが、どのような形で周知をしていたのか。
- 委員 6 山麓線は県道塩尻鍋割穂高線という名称であり、県の管理となっており、管轄は安曇野建設事務所である。また、山麓線の狭窄部の拡幅事業も県で行っている。
- 事務局 県道であっても市道であっても、道路の破損について安曇野市に通報いただければ市と県で連携して対応に当たる。ラインの通報についても同様の対応となる。
- 委員 8 普段自転車を利用しており、過去に安曇野市の実証実験に参加をしたことがあるが、年々暑くなっており、自転車に乗る機会が減っているように感じる。ジャパンアルプスサイクリングロードを走ってみたいと感じるが、そんなに遠くまで自転車で走れない。公共交通機関で自転車を運ぶということができれば短い時間で自転車を楽しむことができる。短い時間で自転車を楽しむ環境についての市民の要望が高まっているのではないかと感じる。
自転車活用推進計画は、県内外、自転車に乗る人乗らない人、交通安全施策についてなど、全面的に展開されていて、安曇野市総合基本計画に紐づいていると感じる。自転車活用推進計画の各施策に目標は定まっているが、数値目標が定まっていない。この点についてどう考えているかお聞きしたい。
- 事務局 計画策定に当たり、いかに自転車を普及させるかという点に焦点を当てて策定を行ったため、あえて数値目標は定めていない。しかし、何かしらの指標が無いと市役所としても行動しにくい点もあることから、今後全てではないが数値目標を定めることについての見直しを来年度に検討している。
- 会長 ②<安曇野自転車活用実態調査結果の報告について>
【資料2】A4版5ページ 説明
昨年度の予備調査はわさび農園で行い、サンプルがほぼ観光客であった。
同調査では、安曇野市サイクリングコースの認知度が観光客については非常に低く、また、穂高のレンタサイクル店利用者はレンタサイクル店のオリジナルマップを利用しており市のマップが使われていない状態であった。
今年度は広く市民へ調査を行うため、わさび農園ではなく、道の駅堀金の里、スイス村、イオン安曇野店において住民調査を行った。
サイクリングコースの認知度は高く、市民の約半分（51%）は知っていた。自転車の保有率は高い（71%）が利用率は低い（43%）ことから、自転車を保有しているものの利用している市民は少ないという実態が明らかになった。
コースマップ利用率は16%であり、市民への定着が厳しいところである。コースの存在を知ってはいるけど利用する人は少ない部分について着目し、改善を図る必要がある。
ヘルメット着用率については約半分（57%）が普段から着用をしており、保有していない人についても補助があれば買いたいという人が71%であった。
その他の希望として、トイレ、サイクルラック、駐輪場の設置要望、安心なコースが欲しい等の意見が見られた。
今後の予定について10月に再度堀金の里、室山アグリパーク、しゃくなげの湯で調査を行う。
また、企業向けの調査も検討している。
- 委員 8 コースが認知されるようになればコース利用率も増えていくという認識でよろしいか。
- 会長 コースを知ってはいるけど利用していない人が多いというのが現状である。知っている人が利用してもらうための働きかけが必要であり、例えば安全な走行ルートの教示、ルート自体の環境整備を行う等をしないう限り、ルート利用者の増加にはつながらない。認知をしているのに利用し

ないことには理由があるので、その特定が必要である。絶対数を増やすためには知っている人を増やす必要もあるので、多くの人に周知することも重要である。

また、同様に自転車は健康に良いということを知っているが乗る人は少ないというデータも示されており、分担率が低いことにもつながっているように感じる。

事務局 コースマップ利用率が16%という数値について、個人的には高い数値であると感じる。様々な市民の方がいて、自転車を持っておりコースも知ってはいるけど、コースを利用せず好きな道を走るといっても当然いる中で、16%の方がコースマップを利用しているということは驚いた。見方によっては高い数値なのではないかと感じる。他の皆さんの印象としてはどのように感じているか。

委員 9 調査の場所が堀金の道の駅であり、サイクリングコースのスタート地点である。ここで調査を行えば数値が高くなることは想像できるが、それにしても16%という数値は高いと思う。

会長 せっかくマップを作ったからには16%という数値に満足せず、利用率をさらに上げていく必要があると思う。

委員 8 やはり16%という数値は高いと感じる。自転車を利用していない人も含めた全体の16%が利用しているということは、自転車利用者に限っていえばさらにコースマップ利用者の比率は高くなる。自転車利用者に限れば多くの方がサイクリングコースを利用しているという実情を踏まえたうえで、今度は道路状況の整備等を行い、利用者が快適に利用してもらうことが新たな課題であると感じる。

委員 5 母数の63人は、ただ買い物に来ただけの人も含まれているのであればやはり16%という数値は高いと感じる。

委員 7 実際にどのように質問したのか

会長 「コースマップを利用していますか」ということを質問した。調査結果については今後細かい数値を出したうえで精査を行う予定である。

会長 調査結果以外に全体を通しての質疑、補足説明があればこの場で挙手を願います。

委員 2 観光協会に最近自転車利用者からメールが届いたのでご紹介をさせていただきたい。メールについては次のとおりである。

「安曇野市民で移動手段が自転車の者です。サイクリング環境の良い安曇野で残念に思うのが、駐輪場で固定されたバーなどに鎖でつながりいわゆる地球ロックができないところが多いところです。鍵をかけても自転車ごと盗まれることもあります。バーのない駐輪場には気軽に立ち寄りづらいので設置を検討していただきたいです。例えば穂高神社、ハイジの里、光城山登山口などです。堀金の里では3台とはいえ設置があるので安心して買い物ができます。是非ご検討ください。」

こういったご意見があり、披露させていただきました。

事務局 貴重なご意見として承った。今後の参考とさせていただきます。

事務局 ③<今後のスケジュールについて>

来年度については7月に開催予定である。また、来年10月末に委員任期が満了となるため新規委員に対する協議会を11月に開催させていただきたいため、来年度は2回の開催を予定している。

また、推進計画の策定から時間が経過したため、策定当初と状況が異なっているため、現状と整合性を図るため来年度に計画の中間見直しを行う予定である。そこで最新の情報への変更や自転車利用促進に向けた明確な指標などを盛り込みたいと考えているため、引き続きご協力をお願いしたい。